

令和5年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

令和6年4月30日現在

研究課題名	オルバーン政権下におけるハンガリーの年金制度の分析				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	佐藤 嘉寿子		帝京大学短期大学 人間文化学科 准教授		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	鈴木 拓	帝京大学経済学部・教授	比較経済	研究分担者
	2	仙石 学	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授	中東欧比較政治	アドヴァイザー

研究成果の概要

本研究では、ハンガリーのオルバーン政権下における年金制度が国民に及ぼした影響について調査・分析を行った。まず、分析に必要な資料収集および現地研究者との意見交換のために、2023年9月に佐藤と鈴木がハンガリーを訪問した。この現地調査は本助成の旅費支給によるものであり、多大な支援を受けた。現地では、資料収集とともに研究者らとの意見交換を行い、貴重な文献や資料も提供していただいた。また、佐藤と鈴木は2023年8月と10月にハンガリーの研究者である Robert Gal 氏とオンラインミーティングを行った。

2024年3月には、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターにおいて、「ハンガリーにおけるオルバーン政権下の年金制度」と題する共同研究報告会を開催し、現地調査で入手した資料や文献を用いた分析の結果を報告した。佐藤がオルバーン政権下の年金政策の変遷を取りまとめ、鈴木がハンガリーでのアンケート結果（2022年、2023年）を用いて、ロジスティック回帰分析による世代ごとの与党支持率について検証した。

2010年以來4期目に入ったオルバーン政権下の年金政策によって、年金の実質支給額は長期にわたり減少傾向にあったことから、コロナ禍で支給額は増加したが、高齢者の与党支持率は低下傾向にあるのではないかとの仮説を立てた。しかし、分析結果からは、高齢者の与党支持率が高くなる傾向にある一方で、キリスト教の信仰度や生活水準、地域性の方が決定要因として強い可能性が示唆された。したがって、高齢者は年金政策を評価しているか、あるいは年金政策以外の政策を重視し、その結果を支持しているとの解釈も可能になった。他方、年金政策に関する支持を直接聞いたデータはなく、2010年のオルバーン政権発足以降全ての期間を計測している訳でもない。また、現地では、家族政策と支持率の結びつきも指摘されている。いずれにしても、

より拡充したデータに基づく分析が必要であるが、本助成による調査は今後の研究につながる有益なものになった。今後は、今回の分析結果を論文として発表する予定である。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

なし

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

なし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。